

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 基本的な生活習慣の確立 遅刻欠席を減らすとともに、挨拶を励行させ、規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	生徒課 教務課	朝学習の実施や登校指導により、近年1日平均遅刻数は5人以下となり、成果を上げた。生徒には引き続き意識改革を求めていく。	【成果指標】 遅刻数が減る。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 5人～7人 C 8人～10人 D 11人以上	8人以上の場合、早急に改善を検討する。	毎月の集計値
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	教務課 生徒課	基本的な生活習慣の確立のため規則正しい生活の実践を行う。欠席防止に努める必要がある。 1日平均の欠席者数 平成27年度 18.9人	【成果指標】 欠席者が減る。	欠席者が1日に A 12人未満 B 12人～20人 C 21人～30人 D 31人以上	21人以上の場合、早急に改善を検討する。	6月と11月の集計値
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	生徒課 各学年	学校生活における正しい服装容儀を守り、品位ある行動を取らせるため、学年団を中心にきめ細かな指導を継続している。	【努力指標】 ルールを守る生徒が増える。規範意識を育てる。	私は（生徒は）校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+Bの合計が70%未満の場合、指導方法を検討する。	7月と12月に生徒・教員・保護者を対象に実施
	④ 悩みや課題を持つ生徒（保護者）に対してきめ細かな対応と支援を行う。	相談室 生徒課 各学年	相談室利用生徒や悩みや課題を持つ生徒には随時面談等を実施し、保護者からの相談には、放課後や休日に対応している。また外部機関との連携を進めている。	【満足度指標】 教師や相談室は、悩みの解決に向けて支援してくれる。	教師や相談室は、悩みの解決に向けて A 支援してくれた B まあまあ支援してくれた C あまり支援してくれなかった D 支援がなかった。	A+Bの合計が70%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒を対象に実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 授業改善と3年間を見通した進路指導 学習意欲と基礎学力向上、粘り強い個別指導や3年間を見通した進路指導を実践して、生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促し、家庭学習の習慣化を図る。	教務課 進路課	朝学習や授業の工夫、選択7限目授業などにより生徒の学習意欲の改善を図っているが、家庭学習時間は不十分である。	【成果指標】 授業のための予習・復習の定着を図る	授業以外の学習時間が「90分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	60%未満の場合、早急に改善を検討する。	学習時間調査の結果を集計する（6月、12月）
	② 公開授業や相互参観授業を活用し、わかりやすい授業のための改善に取り組む。	教務課	年2回の公開授業週間における相互の参観授業や研究授業、生徒による授業評価により授業改善に取り組んでいる。	【努力指標】 相互参観授業や研究授業の回数を増す。	研究授業や教員相互の参観授業に参加した回数が（半期で） A 3回以上の割合が 80%以上 B 2回以上の割合が 80%以上 C 1回以上の割合が 80%以上 D 1回以上の割合が 80%未満	判断がC、Dの場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に教員を対象に実施
	③ 授業評価票などにより、一層の授業改善を図る。	教務課	授業が理解できたとする生徒が70%台である。	【満足度指標】 授業を理解できたとする生徒が増え、自ら授業に参加する。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	70%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒を対象に実施
	④ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	各学年 教務課	各種講話会、ガイダンスやインターンシップを実施しながら生徒の意識を高めている。また、進路希望調査を定期的に行い分析している。	【満足度指標】 生徒自身が自己のキャリア向上を認識でき、十分な進路知識を得られる。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	65%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒を対象に実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化により、心豊かな人間性と社会性を身に付けた人間形成をめざす。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	生徒会室 全教員	新入生に対し「全学部活動日」を設定し、新入生全員が部活動に加入することを目指してきた。昨年度の部加入率は、約64%（1・2年次生対象）であった。	【成果指標】 部活動に加入し、放課後に校舎校地内外で継続的に活動する生徒が増える。	1・2年次生の部加入率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	部活動加入率が70%未満の場合、早急に改善を検討する。	5月と10月の集計値
	② 全員が部活動に主体的・積極的に取り組む。	生徒会室 部顧問	バドミントン部やアーチエリ一部をはじめ、全国大会常連部だけでなく、多くの部が上位進出のために積極的に活動するようになってきている。さらに、文化部でも恒常的に活動する部が増えてきている。	【成果指標】 部活動が継続的に実施され、活性化している。	部活動について A 休まずに参加している B ほぼ休まずに参加している C ときどき参加している D 殆ど参加していない	A+Bの合計が70%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒を対象に実施
	③ 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部顧問	部活動の加入率の上昇にともなって、沈滞した放課後の雰囲気活性化傾向に向かっている。さらに、部活動の指導も充実したものとなっている。	【努力指標】 できる限り部活動の指導に当たる。	部活動の指導について A 活動日は必ず1回は顔を出し、活動内容等を指示する B 活動を見に行けないときは必ず活動内容等を指示する C あまり活動を見に行っていない D 殆ど見に行っていない	A+Bの合計が80%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に教員を対象に実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティアや学校開放及び情報発信などにより地域交流を促進し、地域や保護者に信頼され評価される学校づくりを行う。	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、広報誌等による情報発信も行う。	総務課 情報委員会	地域への情報発信の質・量の向上を図るため、ホームページや広報誌等の充実が求められている。	【成果指標】 生徒や保護者がホームページを閲覧する。昨年度は35%（保護者）	ホームページを定期的に閲覧する。 A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	C以下の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒・保護者・教員を対象に実施
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	総務課 生徒会室	福祉施設訪問や地域一斉清掃活動により、ボランティアの意義を理解させ、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	【満足度指標】 生徒が地域との交流やボランティアに積極的に取り組んでいる。	ボランティアなど地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している。 B 充分とはいえないが、おおむね参加している。 C あまり参加していない。 D 全く参加していない。	A+Bの合計が50%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に生徒を対象に実施
	③ 文化祭などの学校行事や学校開放の情報が地域住民に行き渡るようにする。	総務課 生徒会室	文化祭や開放講座で地域住民との交流をはかるとともに、災害の協力体制づくりにも取り組んでいる。	【満足度指標】 地域住民が学校の行事等に参加しやすい体制を整えている。	地域住民が学校の行事等に参加しやすいための体制が、 A 十分に整っている。 B おおむね整っている。 C あまり整っていないとはいえない。 D 全く整っていない。	A+Bの合計が60%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に教員を対象に実施
	④ 図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	図書室	図書館地域開放(月3回)や図書館行事(10月実施)で地域住民の参加意欲を高める。	【満足度指数】 地域住民の図書館来館数を増やす。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 50人以上 B 30人～49人 C 20人～29人 D 19人以下	9月末でC以下の場合、早急に改善を検討する。	9月と12月の集計値
	⑤ 指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	総務課 生徒会室	生徒のよりよい成長のため、保護者との連携を深める努力を継続しており、保護者の信頼を得ている。今後も学校行事への参加を促進するなど、保護者との協力体制を強化する必要がある。	【満足度指標】 保護者が学校の指導に対して信頼感を持っている。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%～84% C 65%～74% D 65%未満	C以下の場合、早急に改善を検討する。	6月と11月の集計値